ポップカルチャーに関する取組（令和5年度実施分）の分析業務

報告書～概要版～

令和6年8月

株式会社北海道二十一世紀総合研究所

調査結果のポイント

【アンケート調査結果から判明したこと】

- ✓ ポップカルチャーに興味を持つ人は一定割合存在し、そうした人のポップカルチャーの展覧会への参加意向は高い。特に北海道ゆかりの北海道ゆかりのマンガ関連の展覧会への参加意向は非常に高く、道内外、国外からの集客が期待できる。
- ✓ ポップカルチャーの展覧会では、原画に対するニーズが高い。
- ✓ マンガを読んで受けたプラスの影響としては、展覧会参加者からは「知識が増えた・学習に役立った」「ストレスが発散できた・気分転換できた」「癒された」と回答した割合が高かった。一方、札幌市民を対象としたアンケート調査では、上位5位は「気分転換できた」「癒された」「知識が増えた」「ストレスが発散できた」「想像力が豊かになった」で、割合は総じて展覧会参加者よりは低いものの、一般市民にも広くマンガが影響を与えていることがうかがえる。

【イベント開催による経済波及効果】

- ✓ ポップカルチャー関連イベント開催に伴い、市外、道外、海外からの誘客・来場に伴う市内消費により、一定の経済効果が見込まれた。

【与件データ】

企画展	市内消費額（千円）	
白い妖怪ぱーく展 （入館者数：2,558人）	交通費	5,184
	宿泊費	9,664
	飲食費	6,959
	買物・土産代	16,637
	その他の支出	6,737
	合　計	45,180
『あさきゆめみし』× 『日出処の天子』展 （入場者数：8,029人）	交通費	15,391
	宿泊費	24,163
	飲食費	22,112
	買物・土産代	37,465
	その他の支出	13,606
	合　計	112,737

【経済波及効果】

白い妖怪ぱーく展（入館者数：2,558人）	
生産誘発額（千円）	60,696
粗付加価値誘発額（千円）	35,157
就業誘発人数（人/月）	83.9

『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展（入場者数：8,029人）	
生産誘発額（千円）	154,231
粗付加価値誘発額（千円）	88,605
就業誘発人数（人/月）	214.7

- ✓ イベント開催時のオリジナルグッズのニーズは高く、付加価値の高いグッズを市内で開発・生産することで、一定の経済効果が見込まれる。

【今後のポップカルチャー推進施策の検討・提案】

経済の視点	■ ポップカルチャーによる経済振興・活性化
文化芸術の視点	■ ポップカルチャーを通したシビックプライドの醸成
人材育成の視点	■ ポップカルチャー関連人材の育成・発掘

【取り組むべき施策（短期）】

より積極的な情報発信	■ 様々なメディアの活用・対応 ■ 提供・発信する情報の工夫
イベントの開催	■ テーマ・内容についての検討・工夫 ■ 開催場所についての検討・工夫 ■ 開催期間についての検討・工夫 ■ オリジナルグッズの開発・製造・販売
より積極的な企業誘致活動	■ 多様なチャネルからのアプローチ ■ 誘致パンフレット等による情報発信・提供 ■ 首都圏等に本社を持つ企業へのアンケート調査、個別アプローチの実施
原画の収集・保存・活用	■ 原画の保存方法の確立・連携 ■ 原画展示 ■ IP管理によるその有効活用

【マンガ複合施設実現に向けて】

機　能	実現に向けた当面の取組	マンガ複合施設における展開
ライブラリー機能	■ 所蔵書物・資料の充実 ■ 相談員・学芸員の育成	■ テーマ別書架づくり ■ 相談窓口の設置、相談員の配置
ミュージアム機能	■ 原画の収集・保存に関する既存ネットワークとの連携 ■ 原画の収集・保存と作家・出版社等とのネットワークづくり	■ 原画の収集・保存・活用 ■ マンガを文化芸術として研究する組織・機関の構築・設立
ビジネス機能	■ 企画展の開催による機運醸成 ■ IP管理に向けたノウハウ取得・体制整備 ■ 専門教育機関、既存進出企業等とのネットワーク構築による若者の地元就職・地元定着支援	■ 常設展示、企画展の開催 ■ 道内聖地巡礼の拠点としての機能整備 ■ IP管理による地元企業とのコラボによるオリジナルグッズの開発・製造・販売 ■ 各種マッチングの場の提供

展覧会	会　期	会　場
北海道とマンガのミライ	令和5年10月12日～12月12日	札幌市中央図書館
白い妖怪ぱーく展	令和6年2月2日～2月14日	白い恋人パーク内コレクションハウス
SAPPORO MANGA FOREST	令和6年2月29日～3月26日	札幌市図書・情報館
『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展	令和6年3月9日～3月24日	東1丁目劇場施設

アンケート設問項目

基本情報	年代、性別、居住地、職業
展示について	知ったきっかけ、誰と来たか、来場理由、印象に残った展示内容、満足度、グッズ購入、知人友人に知らせるか
ポップカルチャーについて	市の取組への関心、参加イベント(札幌市)、ポップカルチャーへの興味、展覧会への興味、展覧会で楽しみたいこと、展覧会に行く上でのハードル
読書環境	本、マンガ、マンガの影響
市内支出	交通費、宿泊費、飲食費、土産・買物、その他

主な分析項目

- ✓ 属性別(年代、性別、居住地)の特徴
- ✓ マンガ複合施設構想書における市民アンケート調査との比較
- ✓ クロス集計
  - 情報入手経路・来場のきっかけによる分析
  - ポップカルチャーへの興味による分析
  - 読書環境による分析
- ✓ 「マンガ複合施設」についての分析
  - ライブラリー機能
  - ミュージアム機能
  - ビジネス機能

経済波及効果の推計

■対象イベント
- 「白い妖怪ぱーく展」、「『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展」

■推計項目
- 生産波及効果、付加価値効果、雇用創出効果、税収効果(参考値)

■推計内容
- 来場者の市内消費(交通費、宿泊費、飲食費、買い物・土産代、その他)に伴う経済波及効果
- オリジナルグッズを市内で製造したと想定した場合の経済波及効果

有識者ヒアリング

■ヒアリング先(有識者)
- 北海道大学観光学高等研究センターセンター長・教授　山村　高淑　氏
- 合同会社tab　カジタシノブ　氏
- ㈱カワドンエンタテインメント小新井　涼　氏

■主なヒアリング項目
- 札幌市のこれまでの取組について
- 札幌市のポテンシャルについて
- コミック市場が紙のコミック、コミック誌から電子コミックに変わる中で東京でなくてもできること
- 札幌市がポップカルチャーを活かしたまちづくりに取組む意義・役割、取組むべき施策について
- 「マンガ複合施設構想」について

今後のポップカルチャー推進施策の検討・提案

■コンテンツビジネスについて
- コンテンツビジネスとは
- マンガ、アニメの市場動向
- 聖地巡礼
- 「新たなクールジャパン戦略」における位置づけ
- マンガ原画の収集・保存・活用に向けた取組
- これまでの札幌市の取組

■今後進めるべき方向性
- 経済の視点
- 文化芸術の視点
- 人材育成の視点

■期待される相乗効果
- 経済の視点×文化芸術の視点
- 経済の視点×人材育成の視点
- 文化芸術の視点×人材育成の視点

■取り組むべき施策(短期)

■マンガ複合施設構想実現に向けた今後の取組・展開

Ⅱ　アンケート調査結果　参加者（回答者）の特徴

展覧会	回答者（参加者）の特徴
全体を通して	• 各展覧会とも、ポップカルチャーに興味を持ち、普段からマンガを読む来場者の割合が高い。
北海道とマンガのミライ展	• 40代・50代が多数を占めるものの、10代から60代まで幅広い層が来場している。 • 中央図書館（都心地区から離れて立地）で開催されたことから、来場者は普段から本やマンガを読み、ポップカルチャーに興味を持つ人の割合が高い。
白い妖怪ぱーく展	• 20代～40代が多く、全体の約70%を占めている。 • 外国人観光客をメインターゲットとして取り組んだことから、海外居住者が一定割合存在する。 • 白い恋人パークを訪れた際に、企画内容に興味を持って来場した割合が高い。
SAPPORO MANGA FOREST	• 30代～60代の割合が高い。 • 都心地区に立地する札幌市図書・情報館で、開催期間が平日を含んで開催されたことから、ポップカルチャーに興味を持つ周辺で働く人が多く参加したものと考えられる。
『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展	• テーマとなるマンガが80年代の作品（少女マンガ）であることから、当時10代・20代であった中高年層（40代～60代）の女性が中心である。 • 「SNS・ブログ」「ニュースサイドなど外部のウェブサイト」「家族・知人・友人より」の情報をきっかけに、道外からもコアファンを中心に来場しており、道内客、道外客については、本展覧会を目的として来札しているものと考えられる。 • 回答者は、作家・作品のコアファンの占める割合が高く、オリジナルグッズの購買ニーズは高いものと考えられる。

Ⅱ　アンケート調査結果　各展覧会について①　③

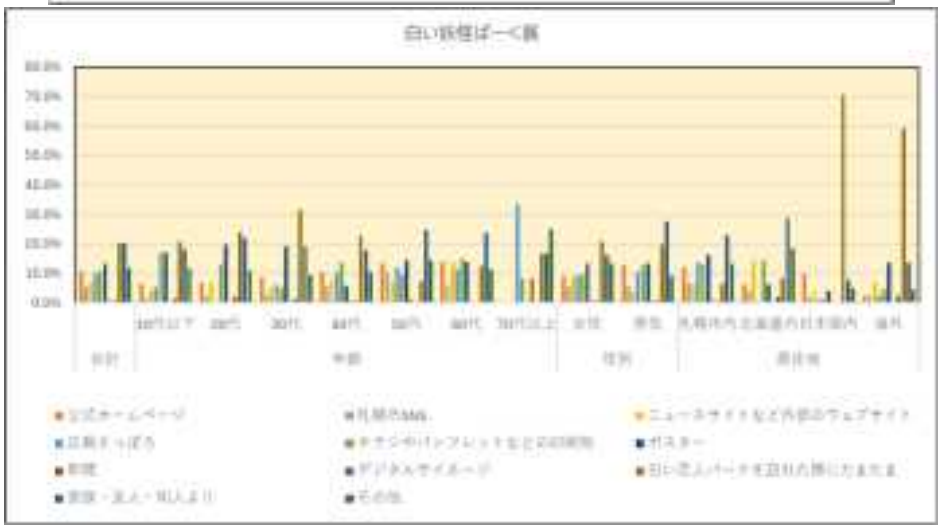
【今回の展覧会を何で知りましたか（情報入手経路・来場のきっかけ）】（下図参照）

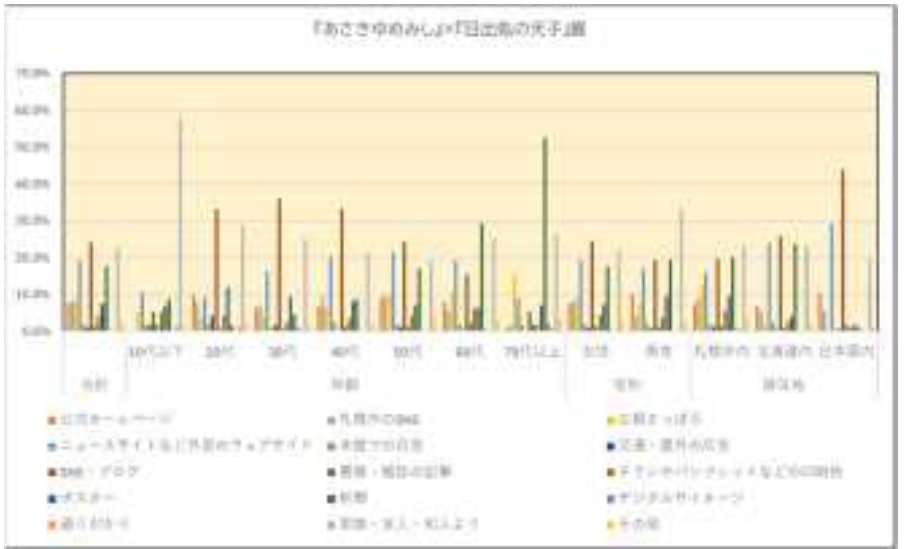
□ 北海道とマンガのミライ展
- 「図書館に来館したついで」と回答した割合がほぼ全ての属性で最も高い。
- 70代以上では「チラシ」「ホームページ」と回答した割合が高い。

□ 白い妖怪ぱーく展
- 「白い恋人パークを訪れた際にたまたま」、「家族・友人・知人より」「ポスター」が高い。一方で、「新聞」、「デジタルサイネージ」は少数にとどまる。
- 観光客と考えられる日本国内在住者、海外居住者については、「白い恋人パークを訪れた際にたまたま」と回答した割合が特に高い。

□ SAPPORO MANGA FOREST
- 「友人・知人」が最も高く、ついで「図書館に来館したついで」が高い。
- 市外居住者では、「ホームページ」「SNS」「友人・知人」が比較的高いことが特徴的である。

□『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
- 「SNS・ブログ」、「家族・友人・知人より」、「ニュースサイトなどの外部のウェブサイト」と回答した割合が高い。特に「通りがかり」が低いことが他の展覧会と異なる。
- 60代、70代以上及び日本国内居住者では「新聞」と回答した割合が高い。





Ⅱ　アンケート調査結果　各展覧会について②　④

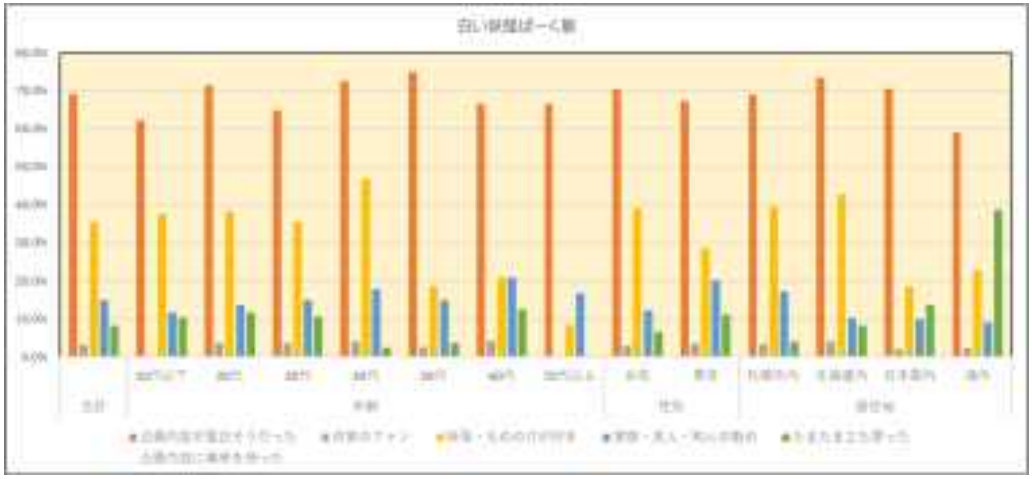
【来場理由】（下図参照）

■ 白い妖怪ぱーく展

- 「企画内容が面白そうだった、企画内容に興味をもった」と回答した割合が各属性とも、最も高い。
- ついで、「妖怪・もののけが好き」と回答した割合が、ほぼ全ての属性で高い。
- 海外居住者では「たまたま立ち寄った」と回答した割合が高い。

■『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展

- ほぼ全ての属性で、「作家のファン」、「作品のファン」と高く、テーマとなるマンガが80年代の作品であることから、当時10～20代であった中高年層（40～60代）の女性を中心に、作家・作品のファンが来場したといえる。
- 10代以下では、「家族・友人・知人の勧め」と回答した割合が高く、テーマとなるマンガを実体験していない世代にも来場理由となり得た展覧会であったといえる。



Ⅱ　アンケート調査結果　各展覧会について③　⑤

【展覧会の満足度】（下図参照）

■ 白い妖怪ぱーく展

- 「非常に満足」「やや満足」というポジティブな回答が全体で93.4%を占める。
- 年代別では、年齢が高まるにつれて、ポジティブな回答が低くなる傾向にある。

■『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展

- 「非常に満足」「やや満足」というポジティブな回答が全体で91.8%を占める。
- 年代別では、年齢が高まるにつれて、「非常に満足」と回答した割合が低くなる傾向にある。これは、グッズの売切によりグッズ購入できなかったことが要因の一つと考えられる。

【印象に残った展示内容】(グラフ省略)

□ 北海道とマンガのミライ展
- 「北海道ゆかりのマンガ家」と回答した割合が全体で84.0%と最も高く、各属性でも最も高い。
- 次に「札幌・北海道が舞台のマンガ」と回答した割合が全体で57.0%と高く、各属性でも高い。
- 「『あさきゆめみし』×『日出処の天子』カラー複製原画」(39.7%)「あなたのイチ推しマンガ教えてください」(36.3%)も全体で40%近い回答を得ている。

□ 白い妖怪ぱーく展
- 全体では、「「白い妖怪」の4コマ漫画」(48.5%)「「てんぷら妖怪」の原画展示」(45.7%)「「てんぷら妖怪」の立体展示」(45.6%)と回答した割合が高い。これはほぼ全ての属性で同様である。本展示会のメインターゲットとした外国人観光客の評価もほぼ同様の結果である。

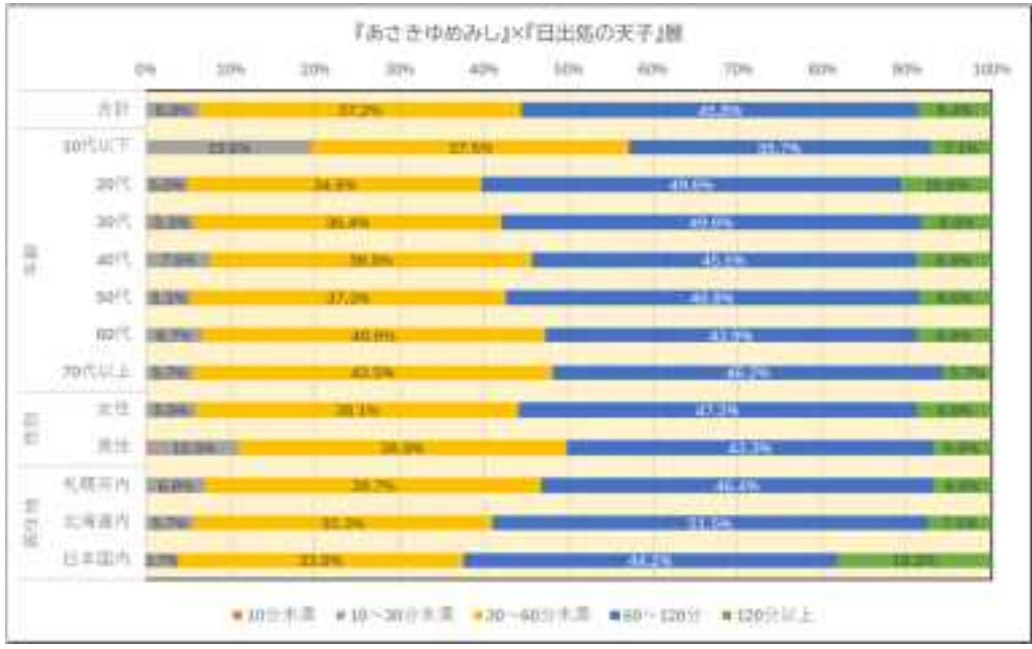
□ SAPPORO MANGA FOREST
- 「ストーリーマンガを主に取り扱った【響】」「創作活動について取り扱った【創】」と回答した割合が全体で約50%と高く、特に30代での評価が高い。

□ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
- 全体では「カラー原画」(83.6%)「モノクロ原画」(71.3%)「札幌の二人(札幌の思い出マンガなど)」(59.4%)と回答した割合が高く、全ての属性でも高い。

【滞在時間】(右図参照)

□ 白い妖怪ぱーく展
- 全体では、「10分未満」が2.2%、「10～30分未満」が47.1%、「30～60分未満」が39.7%、「60分以上」が11.0%であった。
- 属性では、10代以下の滞在時間がやや長い傾向にある。

□ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
- 全体では、「10分未満」が0.1%、「10～30分未満」が6.0%、「30～60分未満」が37.2%、「60～120分」が45.8%、「120分以上」が8.4%であった。半数以上が60分以上滞在している。
- 年齢、性別で見ても以上の傾向とほぼ同様である。
- 居住地では、札幌市内よりも、北海道内の方が長く、さらに日本国内の方が長い傾向にあり、日本国内では「120分以上」が18.2%を占めている。



Ⅱ　アンケート調査結果　マンガ等のポップカルチャーについて①

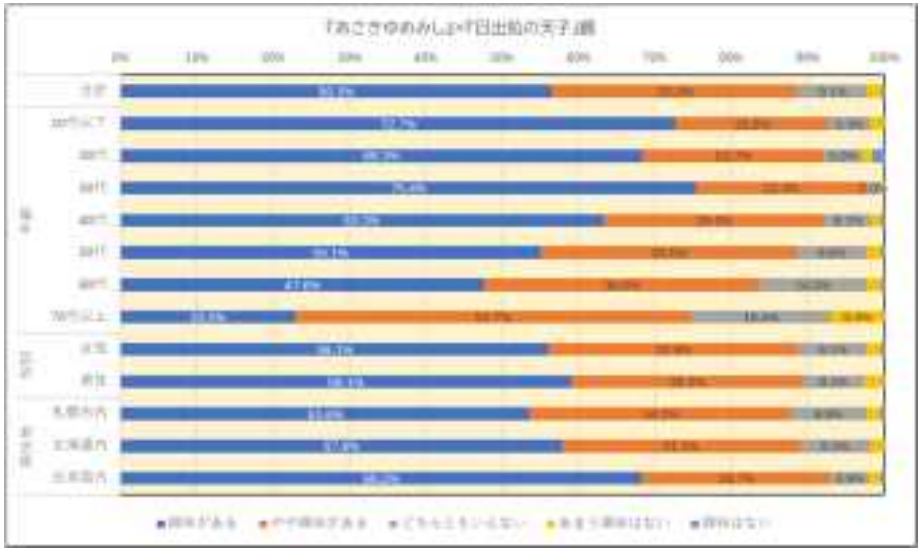
【ポップカルチャーへの興味】（下図参照）

- □ 北海道とマンガのミライ展
  - 「興味がある（84.0%）」「やや興味がある（14.8%）」とポジティブな回答をした割合は、全体で98.8%にのぼる。
- □ 白い妖怪ぱーく展
  - 他の展覧会よりは、ポジティブな回答が若干低いものの、「興味がある（63.1%）」「やや興味がある（23.3%）」とポジティブな回答をした割合は、全体で86.4%にのぼる。
- □ SAPPORO MANGA FOREST
  - 「興味がある（82.4%）」「やや興味がある（17.6%）」とポジティブな回答のみである。
- □ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
  - 「興味がある（59.8%）」「やや興味がある（29.8%）」とポジティブな回答をした割合は、全体で89.6%にのぼる。

Ⅱ　アンケート調査結果　マンガ等のポップカルチャーについて②

【ポップカルチャーの展覧会への興味】（下図参照）

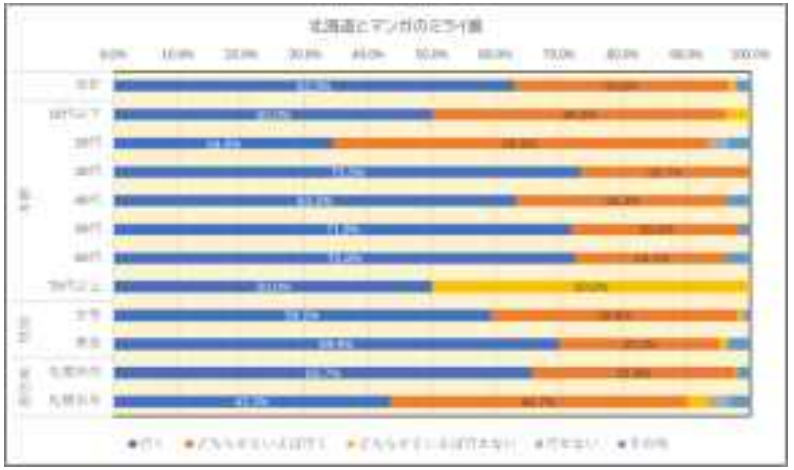
- 北海道とマンガのミライ展
  - 「興味がある」「やや興味がある」というポジティブな回答が全体で95.4%を占める。
- 白い妖怪ぱーく展
  - 他の展覧会よりは、ポジティブな回答が若干低いものの、「興味がある」「やや興味がある」というポジティブな回答が全体で85.3%を占める。
- SAPPORO MANGA FOREST
  - 「興味がある」「やや興味がある」というポジティブな回答が全体で93.2%を占める。
- 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
  - 「興味がある」「やや興味がある」というポジティブな回答が全体で88.8%を占める。

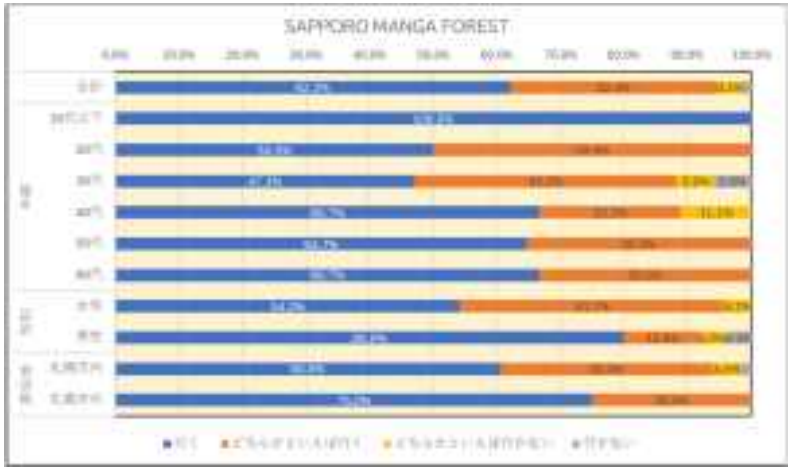


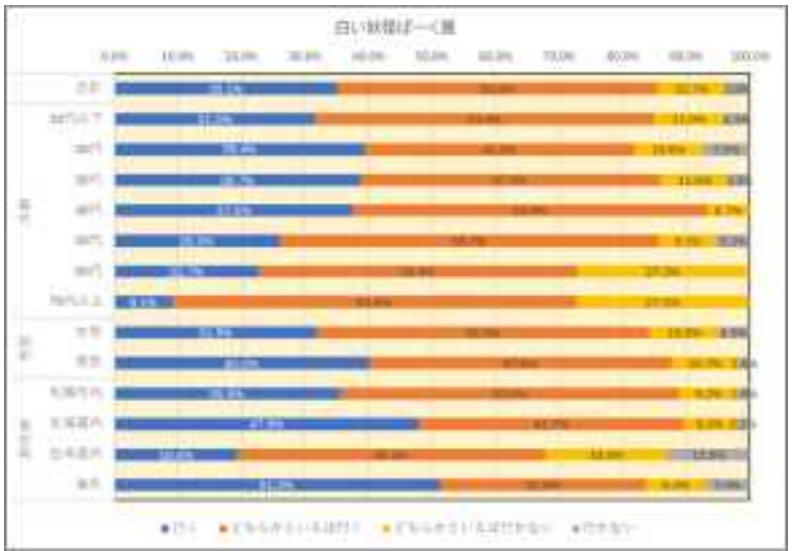
Ⅱ　アンケート調査結果　マンガ等のポップカルチャーについて③

【北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会への参加意向】（下図参照）

- 北海道とマンガのミライ展
  - 「行く」（62.9%）、「どちらかといえば行く」（33.8%）というポジティブな回答が96.7%を占める。
- 白い妖怪ぱーく展
  - 他の展覧会と比較して、ポジティブな回答は若干低いものの、「行く」（35.1%）、「どちらかといえば行く」（50.4%）というポジティブな回答が85.5%を占める。
- SAPPORO MANGA FOREST
  - 「行く」（62.2%）、「どちらかといえば行く」（32.4%）というポジティブな回答が94.6%を占める。
- 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
  - 「行く」（46.6%）、「どちらかといえば行く」（48.5%）というポジティブな回答が95.1%を占める。







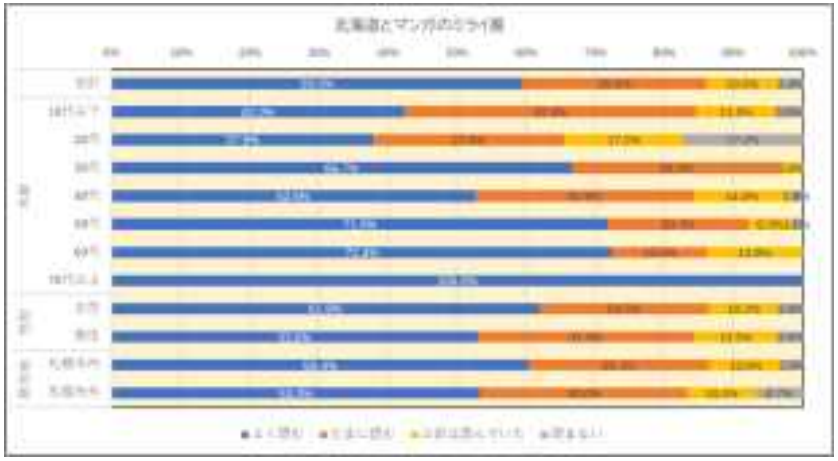
【読書環境(本)】(下図参照)

□ 北海道とマンガのミライ展
- 「よく読む」は59.5%、「たまに読む」は26.6%を占め、「以前は読んでいた」は10.5%、「読まない」は3.4%にとどまる。

□ 白い妖怪ぱーく展
- 「よく読む」は47.2%、「たまに読む」は37.9%を占め、「以前は読んでいた」は7.7%、「読まない」は7.2%である。他の展覧会に比べて、「読まない」と回答した割合が若干高い。

□ SAPPORO MANGA FOREST
- 「よく読む」は68.9%、「たまに読む」は25.7%を占め、「以前は読んでいた」は5.4%、「読まない」は0%にとどまる。他の展覧会と比較して「よく読む」と回答した割合が高い。

□ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展
- 「よく読む」は62.5%、「たまに読む」は26.3%を占め、「以前は読んでいた」は8.9%、「読まない」は2.3%にとどまる。
- 年代別では、「よく読む」と回答した割合は、30代の68.4%をピークとして、年代が上がるにつれ、漸減傾向にあり、「以前は読んでいた」と回答した割合が増加傾向にある。



Ⅱ　アンケート調査結果　読書環境について②

【読書環境（マンガ）】（下図参照）

□ 北海道とマンガのミライ展

• 「よく読む」は62.9%、「たまに読む」は28.7%を占め、「以前は読んでいた」は8.0%、「読まない」は0.4%にとどまる。「よく読む」と回答した割合は【読書環境（本）】よりも若干高い。

□ 白い妖怪ぱーく展

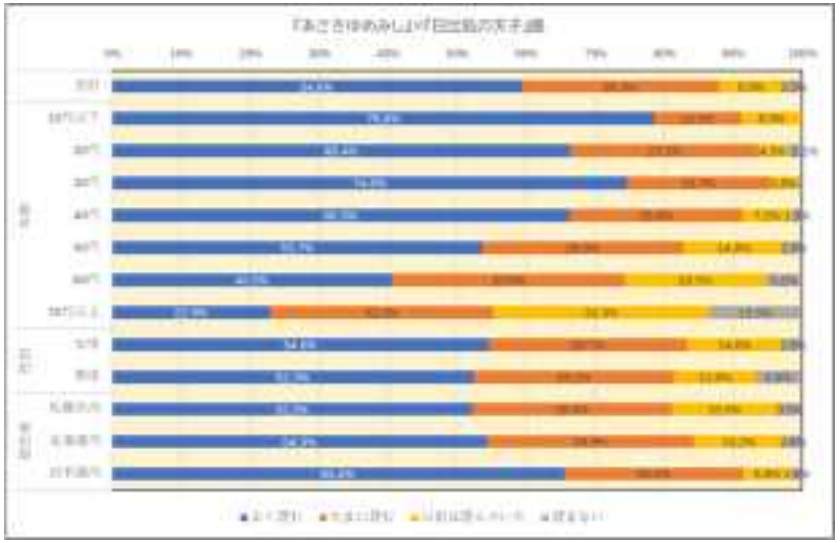
• 「よく読む」は46.1%、「たまに読む」は36.2%を占め、「以前は読んでいた」は8.9%、「読まない」は8.7%である。他の展覧会に比べて、「よく読む」と回答した割合が若干低い。

□ SAPPORO MANGA FOREST

• 「よく読む」は63.0%、「たまに読む」は30.1%を占め、「以前は読んでいた」は5.5%、「読まない」は1.4%にとどまる。「よく読む」と回答した割合は【読書環境（本）】よりも低い。

□ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展

• 「よく読む」は54.6%、「たまに読む」は28.6%を占め、「以前は読んでいた」は13.8%、「読まない」は3.1%にとどまる。「よく読む」と回答した割合は【読書環境（本）】よりも低い。また、「以前は読んでいた」と回答した割合は、他の展覧会よりも高いことが特徴的である。



Ⅱ　アンケート調査結果　読書環境について③

【マンガを読んで受けたプラスの影響】(次ページ参照)

□ 北海道とマンガのミライ展

- 「知識が増えた、学習に役立った」と回答した割合が69.6%と最も高く、次いで「ストレスが発散できた、気分転換できた」(66.2%)、「癒された」(63.3%)、「前向きになった」(52.3%)、「想像力が豊かになった」(48.5%)と続く。「プラスの影響はない」と回答した人は0であった。

□ 白い妖怪ぱーく展

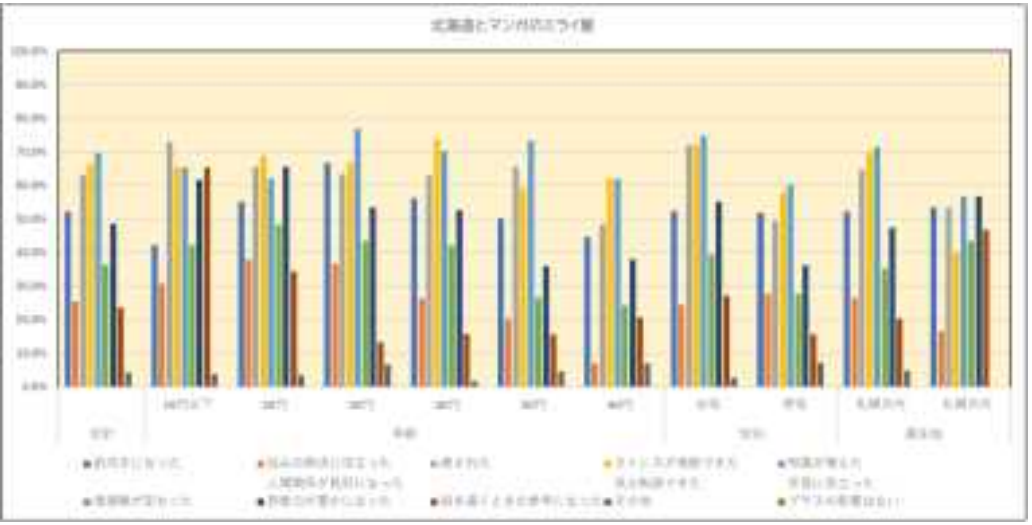
- 「ストレスが発散できた、気分転換できた」と回答した割合が48.5%と最も高く、次いで「癒された」(36.4%)、「前向きになった」(33.4%)、「知識が増えた、学習に役立った」(33.1%)、「想像力が豊かになった」(28.5%)と続く。「プラスの影響はない」と回答した割合は2.8%にとどまる。他の展覧会と比較して、全体的にプラスの影響を回答した割合が低い傾向にある。これは他の展覧会がマンガをテーマとしていることに起因するものと考えられる。

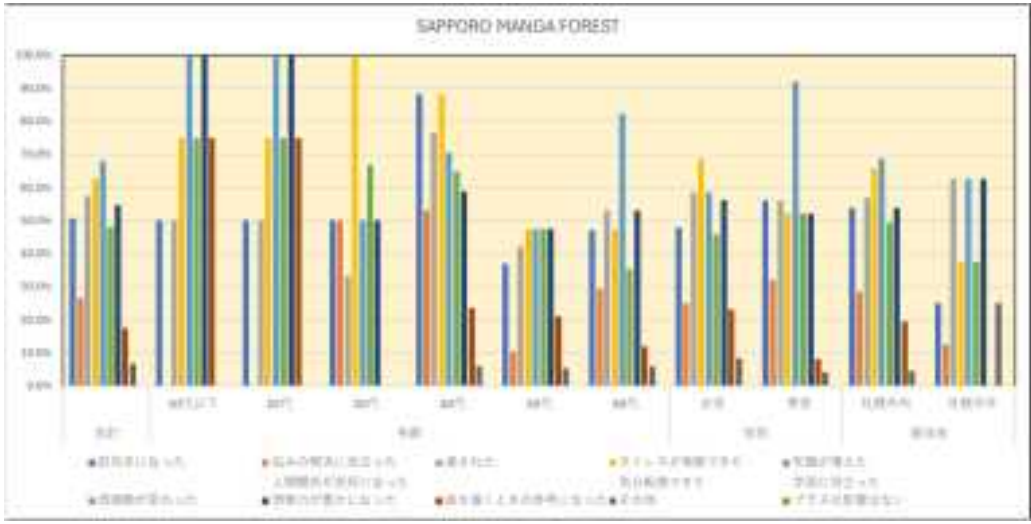
□ SAPPORO MANGA FOREST

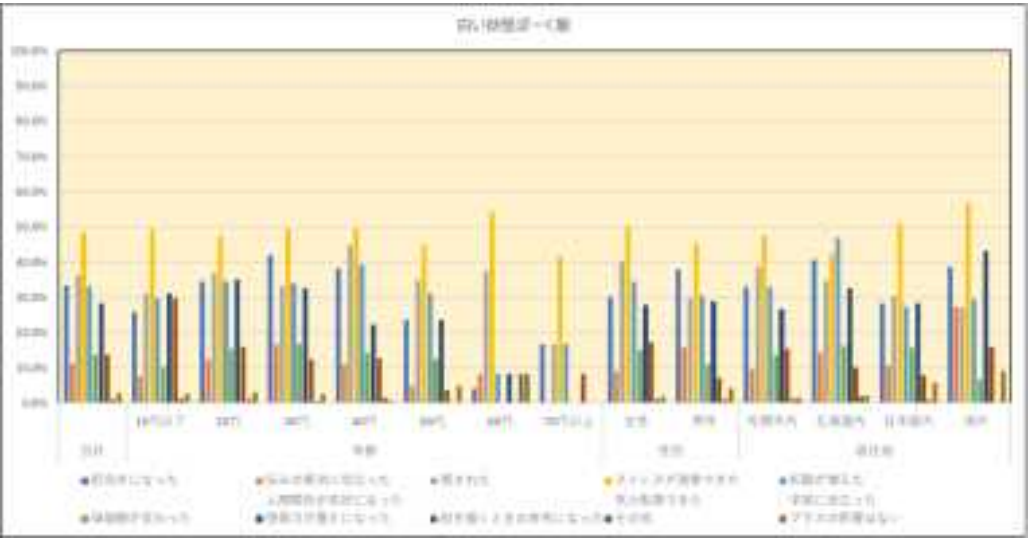
- 「知識が増えた、学習に役立った」と回答した割合が68.0%と最も高く、次いで「ストレスが発散できた、気分転換できた」(62.7%)、「癒された」(57.3%)、「想像力が豊かになった」(54.7%)、「前向きになった」(50.7%)と続く。「プラスの影響はない」と回答した人は0であった。割合が高い項目及び回答した割合は、「北海道とマンガのミライ展」とほぼ同様である。

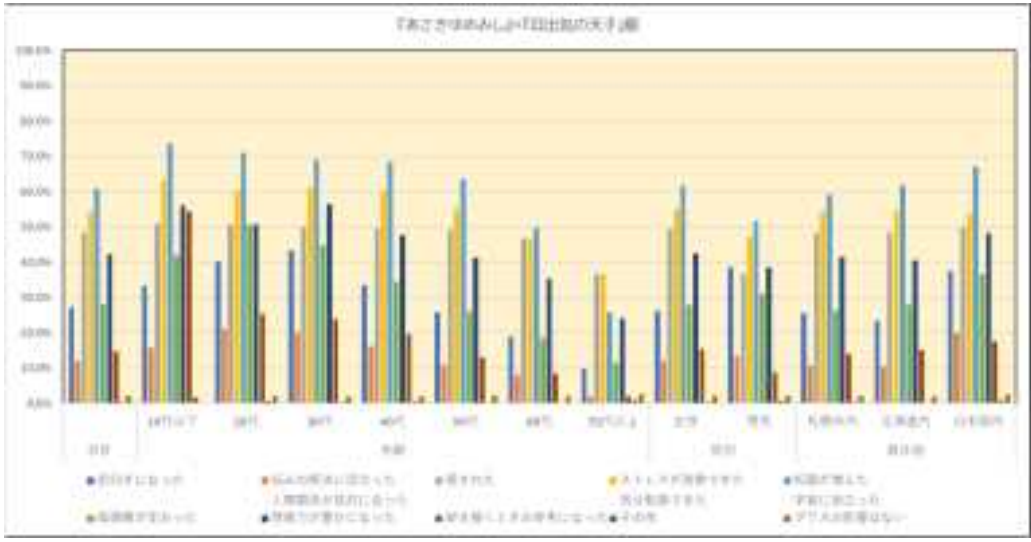
□ 『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展

- 「知識が増えた、学習に役立った」と回答した割合が60.9%と最も高く、次いで「ストレスが発散できた、気分転換できた」(54.3%)、「癒された」(48.4%)、「想像力が豊かになった」(42.3%)、「価値観が変わった」(28.1%、)「前向きになった」(27.1%)と続く。「プラスの影響はない」と回答した割合は2.1%であった。割合が高い項目は、「北海道とマンガのミライ展」「SAPPORO MANGA FOREST」とほぼ同様である。。



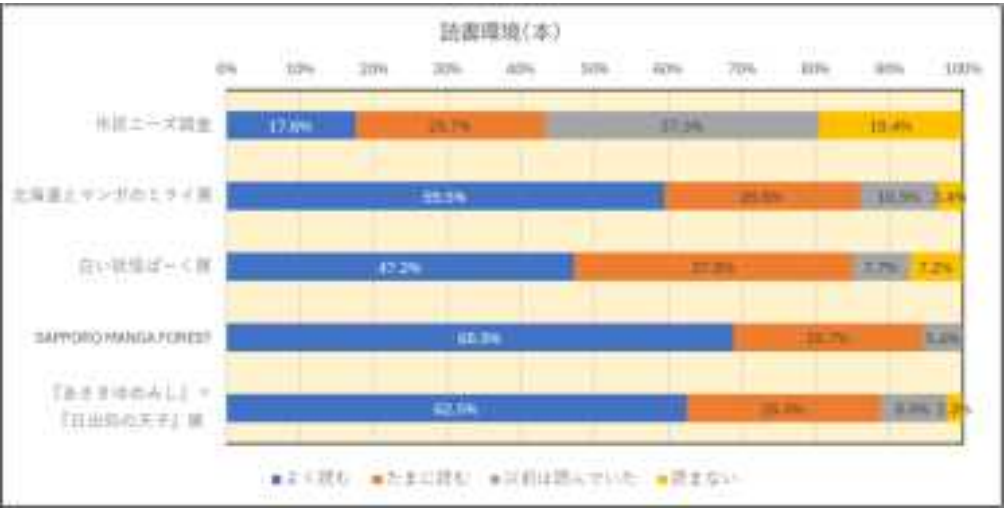

SAPPORO MANGA FOREST



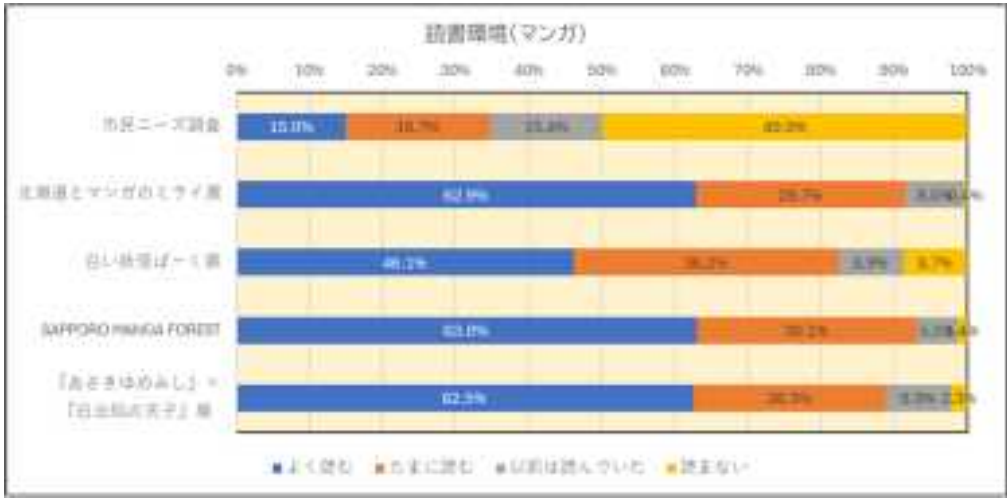


Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察 「マンガ複合施設構想書」における市民アンケート調査との比較①　⑭

【読書環境(本)】(下図参照)
- 市民アンケート調査と比較して、各展覧会のアンケート調査では、普段、本(電子書籍を含む)を「よく読む」「たまに読む」と回答した割合が高い。
- 「北海道とマンガのミライ展」は中央図書館での開催、「SAPPORO MANGA FOREST」は札幌市図書・情報館での開催、「『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展」はコアファンを対象とした展覧会であることから、普段から本を読む人が参加した展覧会であると言える。
- 「白い妖怪ぱーく展」についても、マンガと直接関係ない展覧会であるものの、市民ニーズ調査と比較して、本を「よく読む」「たまに読む」と回答した割合が高い。



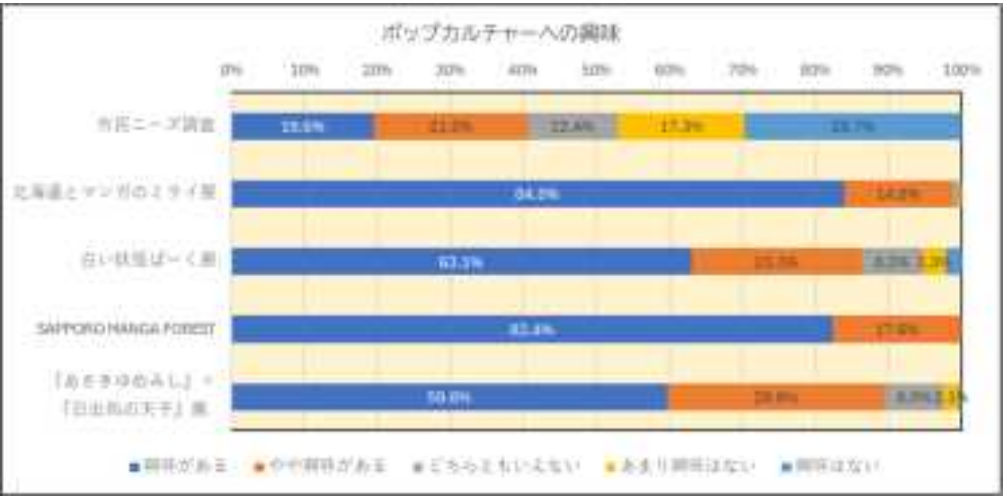
【読書環境(マンガ)】(下図参照)
- 市民アンケート調査と比較して、各展覧会のアンケート調査では、普段、本(電子書籍を含む)を「よく読む」「たまに読む」と回答した割合が高い。
- 「北海道とマンガのミライ展」は中央図書館での開催、「SAPPORO MANGA FOREST」は札幌市図書・情報館での開催、「『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展」はコアファンを対象とした展覧会であることから、普段から本を読む人が参加した展覧会であると言える。
- 「白い妖怪ぱーく展」についても、マンガと直接関係ない展覧会であるものの、市民ニーズ調査と比較して、本を「よく読む」「たまに読む」と回答した割合が高い。

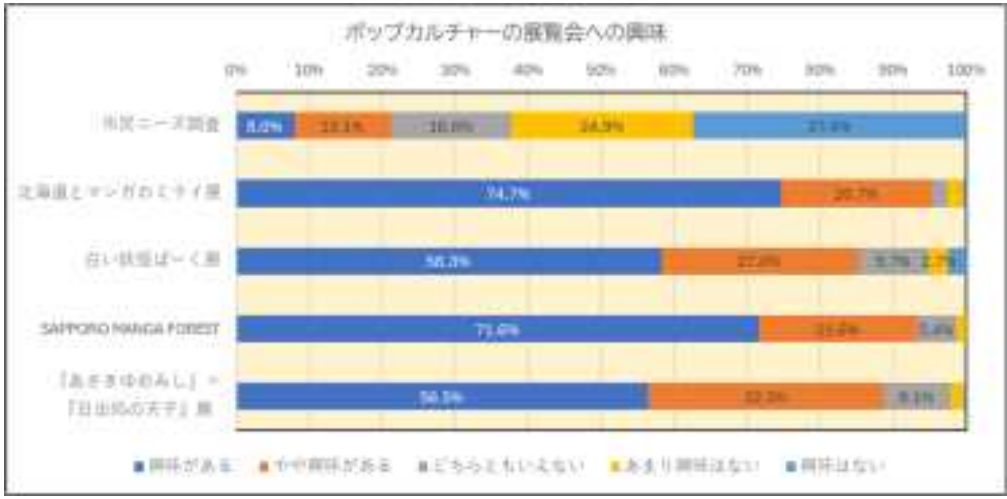


Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察 「マンガ複合施設構想書」における市民アンケート調査との比較②　⑮

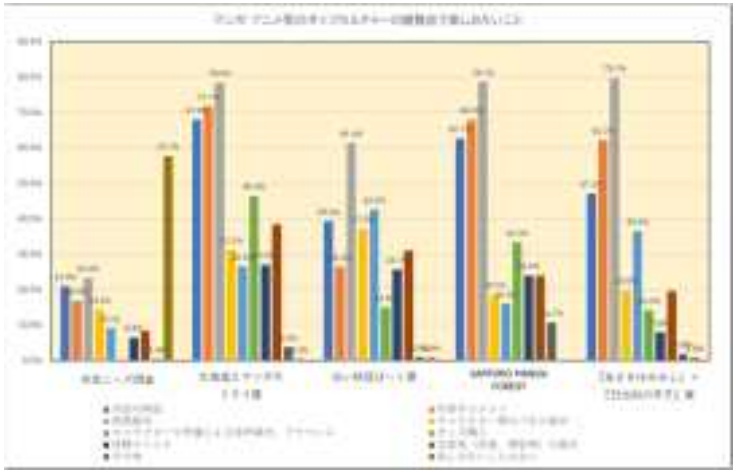
【マンガ、アニメ等のポップカルチャーへの興味】（下図参照）
- 市民アンケート調査と比較して、各展覧会ともポップカルチャーについて「興味がある」「やや興味がある」と回答した割合が高い。
- ・ただし、市民アンケート調査においても、「興味がある」「やや興味がある」と回答した割合は40.6%を占めている。

【マンガ、アニメ等のポップカルチャーの展覧会への興味】（下図参照）
- 市民アンケート調査と比較して、各展覧会ともポップカルチャーについて「興味がある」「やや興味がある」と回答した割合が高い。各展覧会とも元々ポップカルチャーの展覧会に興味のある人が参加したと言える。
- 一方、市民アンケート調査では、「興味がある」「やや興味がある」と回答した割合は21.1%にとどまり、ポップカルチャーに興味があると回答した割合より低くなっている。ポップカルチャーには興味があっても、ポップカルチャーの展覧会に参加することまでは考えていない層が一定割合存在すると言える。

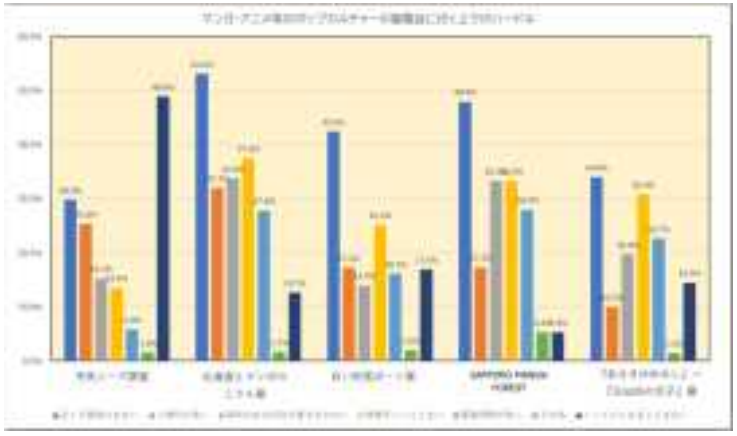




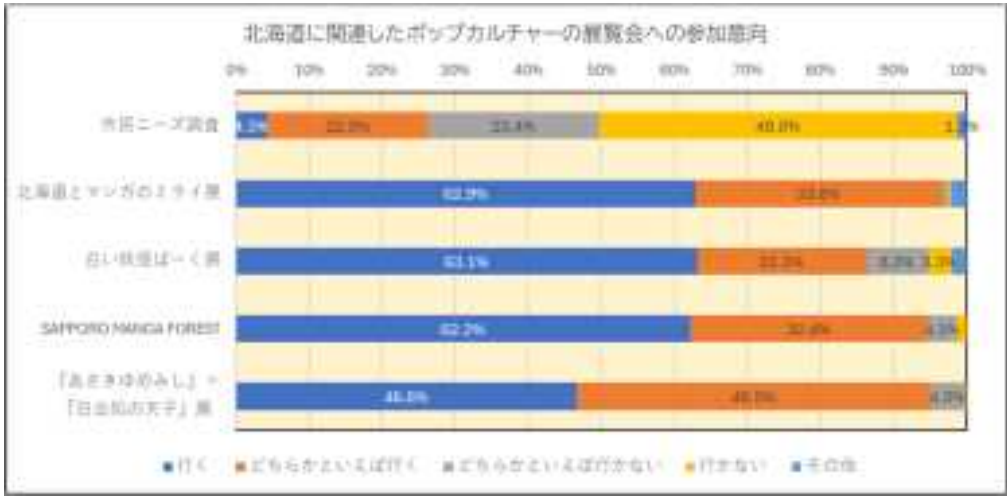
【マンガ・アニメ等のポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこと】（下図参照）
- 市民アンケート調査では「楽しみたいことはない」と回答した割合が高い。
- 楽しみたいこととしては、白い妖怪ぱーく展を除き、「原画展示」「作品の解説」「作家のコメント」が上位3項目である。白い妖怪ぱーく展では、「キャラクターや声優による音声案内、アナウンス」が高い。



【マンガ、アニメ等の展覧会に行く上でのハードル】（下図参照）
- 市民ニーズ調査では「ハードルとなることはない」と回答した割合が高い。これは、ポップカルチャーの展覧会に「興味はない」と回答した割合が高いことと関係しているものと考えられる。
- いずれの調査でも「近くで開催されない」と回答した割合が高い。

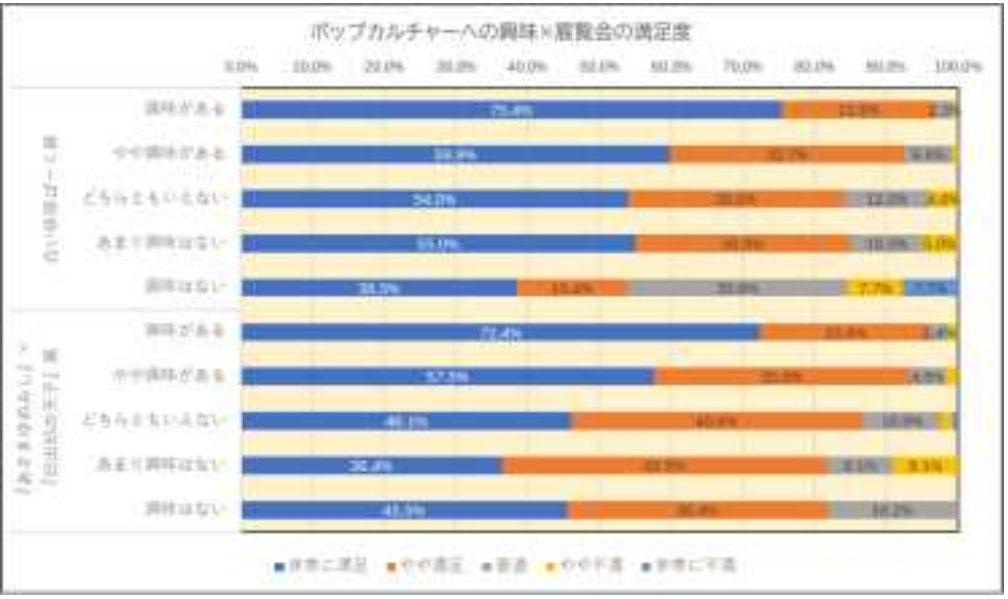


【北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会への参加意向】（下図参照）
- 市民ニーズ調査と比較して、各展覧会では「行く」「どちらかといえば行く」と回答した割合が高いことが特徴的である。
- ただし、市民ニーズ調査においても、「行く」「どちらかといえば行く」と回答した割合は26.3%であり、一般市民においても一定のニーズがあることがうかがえる。

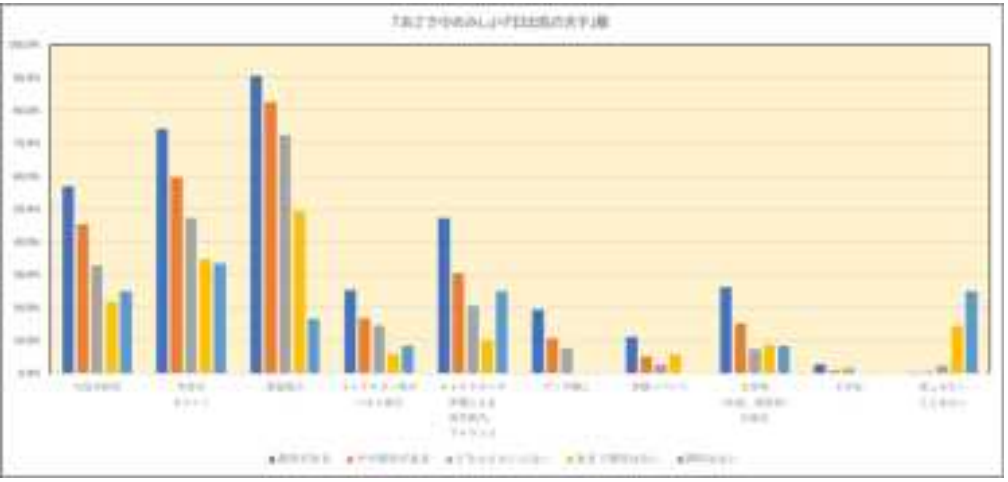


【ポップカルチャーへの興味×展覧会の満足度】（下図参照）
- 白い妖怪ぱーく展、『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展とも、ポップカルチャーに興味がある人の方が満足度は高い。
- 興味はない人でも、「非常に満足」「やや満足」と回答した人は、妖怪展では53.9%、二人展では81.9%に及ぶ。

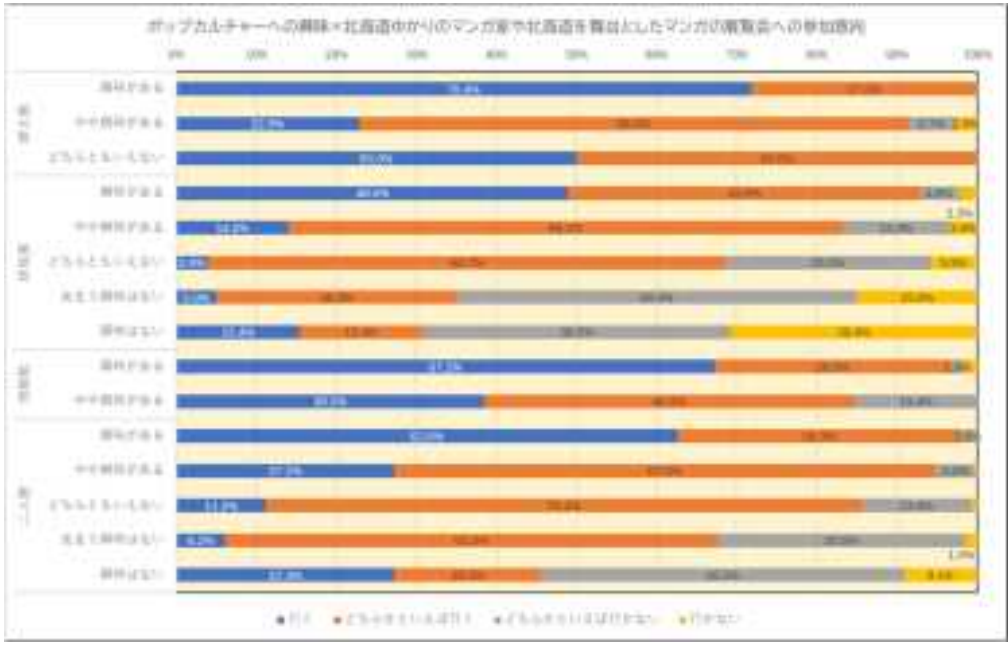
【ポップカルチャーへの興味×ポップカルチャーの展覧会への興味】（下図参照）
- 北海道とマンガのミライ展（郷土展）、白い妖怪ぱーく展（妖怪展）、SAPPORO MANGA FOREST（情報館）、『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展（二人展）ともに、顕著に、ポップカルチャーに「興味がある」人ほどポップカルチャーの展覧会に「興味がある」と回答している割合が高く、ポップカルチャーに「興味はない」人ほどポップカルチャーの展覧会にも「興味はない」と回答している割合が高い。



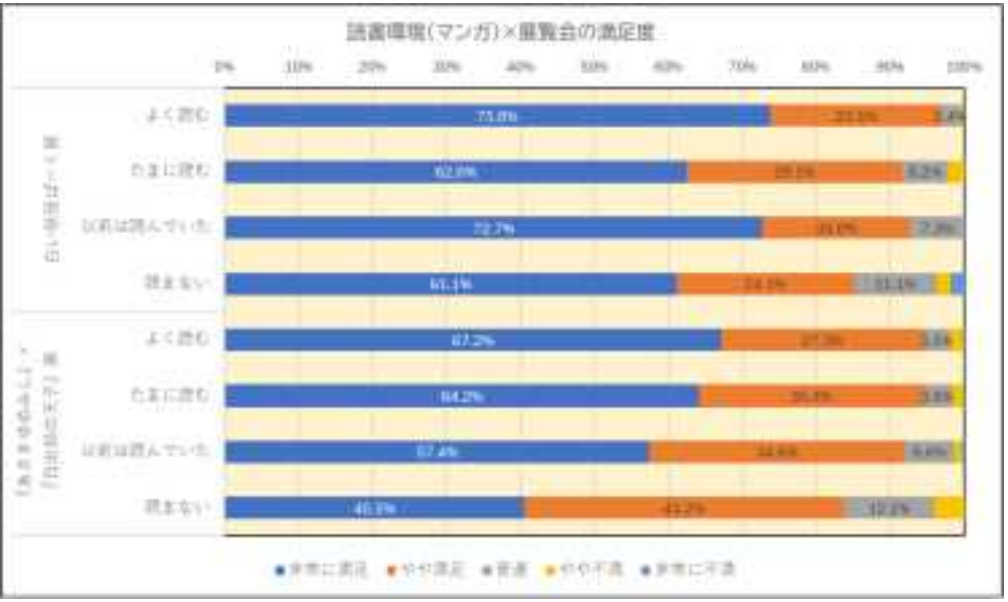
【ポップカルチャーへの興味×ポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこと】
- 一部母数の少ない回答を除き、楽しみたいこととして割合の高い項目は同じ傾向にある。
- ポップカルチャーに「興味がある」人ほど、楽しみたいこととして各項目とも割合は高い傾向にある。
- 特に、各展覧会とも、ポップカルチャーへの興味に関わらず、「原画展示」「作家のコメント」「作品の解説」を挙げた人の割合が高い。



【ポップカルチャーへの興味×北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会への参加意向】
- ポップカルチャーに「興味がある」と回答した人の参加意向は非常に高い。
- ポップカルチャーに「興味はない」と回答した人でも、「行く」「どちらかと言えば行く」と回答した人の割合は、妖怪展で30.8%、二人展で45.5%と一定割合存在する。

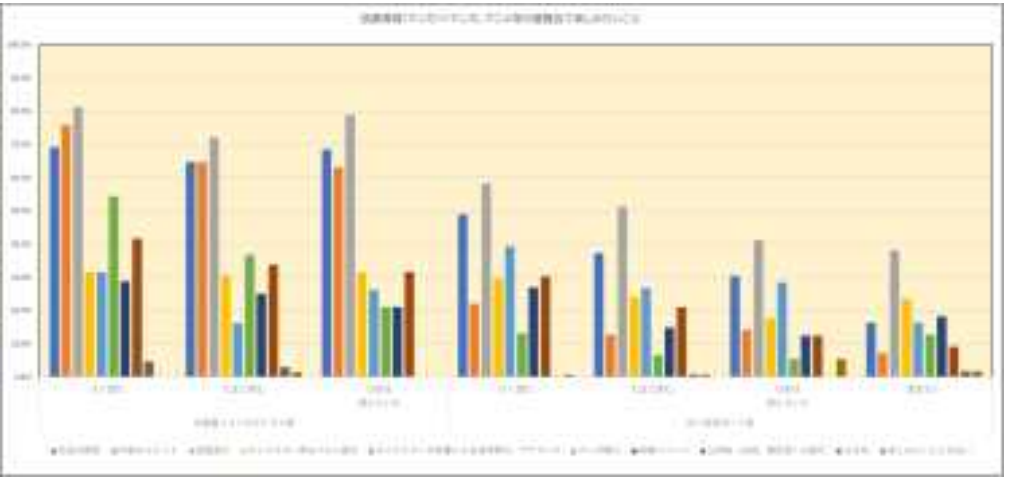


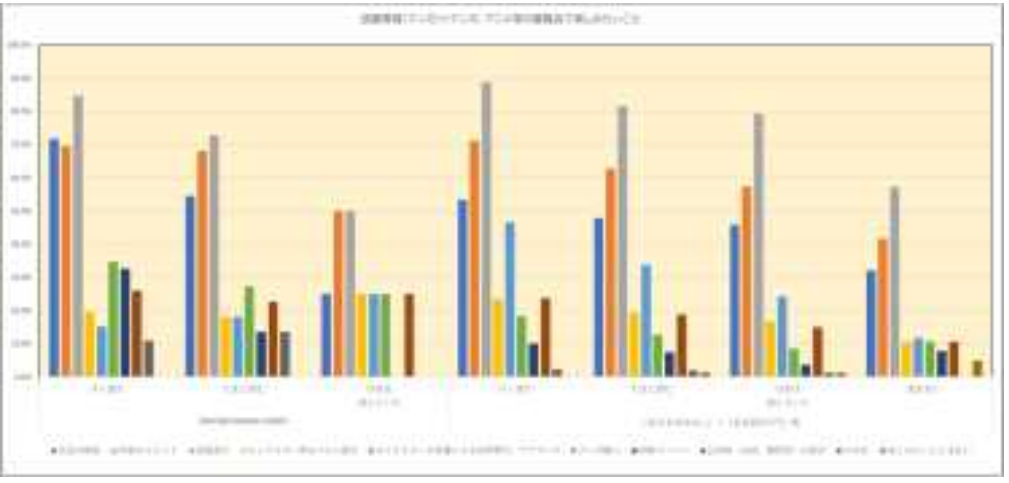
【読書環境（マンガ）×展覧会の満足度】（下図参照）
- マンガを「読まない」と回答した人でも、「非常に満足」「やや満足」と回答した人の割合は高い。



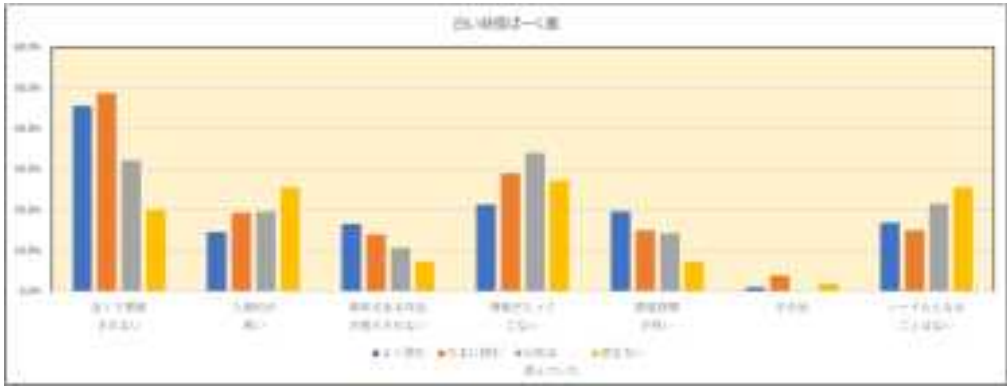
【読書環境（マンガ）×ポップカルチャーの展覧会への興味】
- 「ポップカルチャーへの興味」と同様に、「よく読む」と回答した人ほど、ポップカルチャーの展覧会に興味がある。
- ・「読まない」と回答した人でも、「興味がある」「やや興味がある」と回答した人は、妖怪展では56.4%、二人展では55.5%と50%を上回る結果となっている。

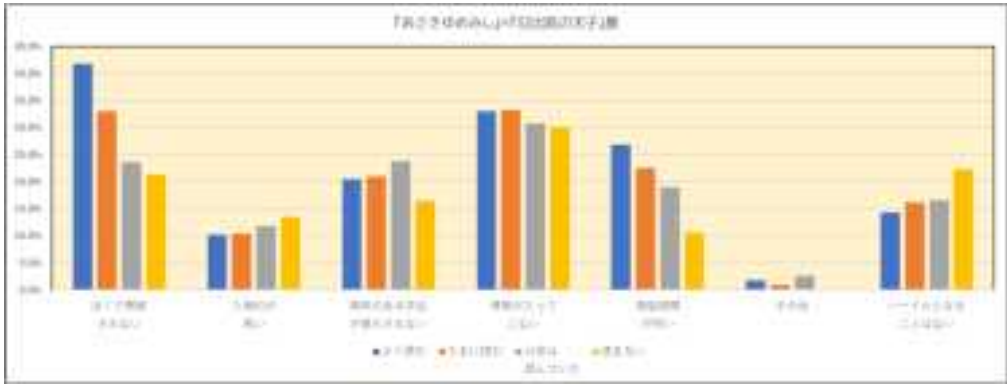
【読書環境（マンガ）×ポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこと】
- 白い妖怪ぱーく展を除き、マンガを「読まない」と回答した人においても、「原画展示」「作家のコメント」「作品の解説」を展覧会で楽しみたいと回答した人の割合は高い。





【読書環境（マンガ）×ポップカルチャーの展覧会に行く上でのハードル】
- マンガを読む人と読まない人とで比較した場合、読む人は「近くで開催されない」「開催期間が短い」を挙げる割合が高く、読まない人では「入場料が高い」「ハードルとなることはない」を挙げる割合が高い。
- マンガを読む人、読まない人ともに、「情報が入ってこない」を挙げる割合が高い。





Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察　読書環境（マンガを読む・読まない）による分析③

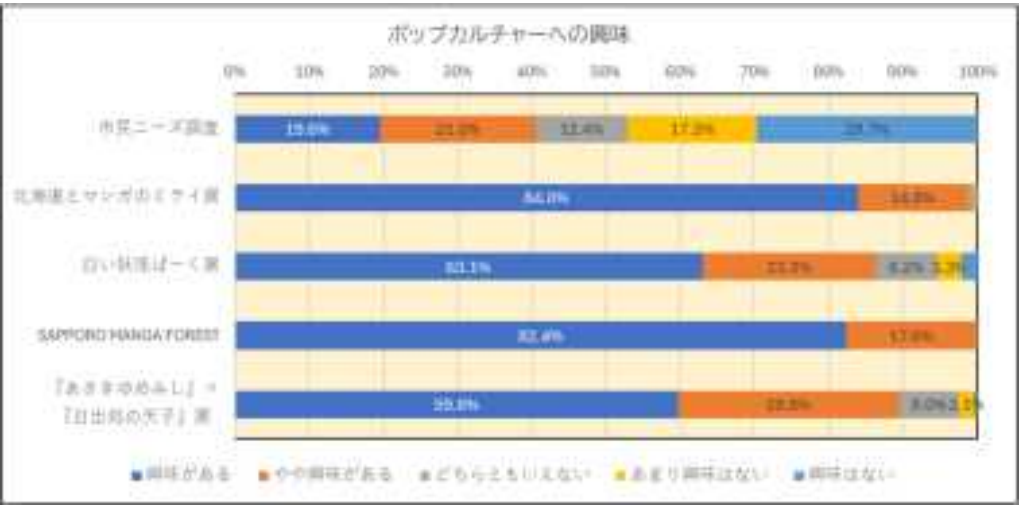
【読書環境（マンガ）×北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会への参加意向】
- マンガを「よく読む」「たまに読む」と回答した人の参加意向は非常に高い。
- マンガを「読まない」と回答した人でも、「行く」「どちらかと言えば行く」と回答した人の割合は、妖怪展で61.9%、二人展で80.0%と高い回答であった。

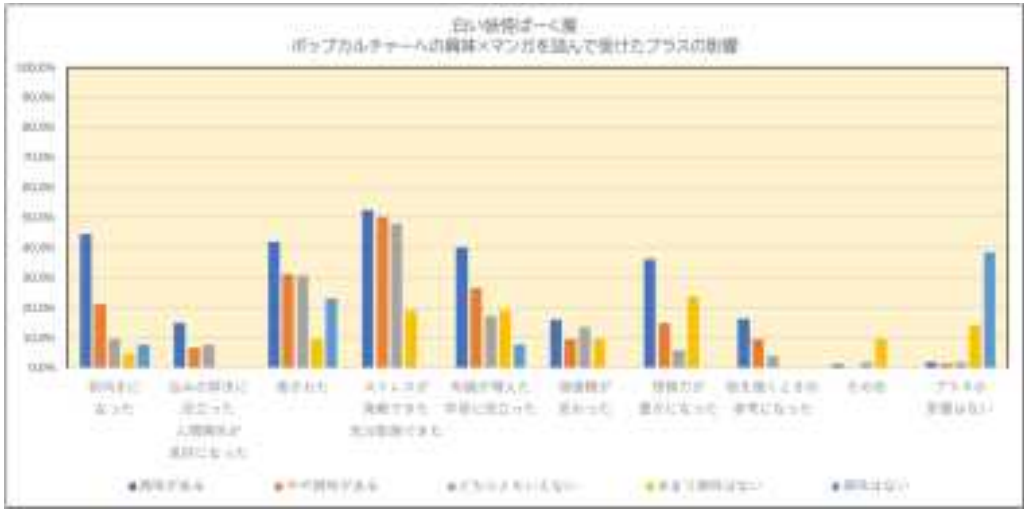
【読書環境（マンガ）×マンガを読んで受けたプラスの影響】
- 全体的に、マンガを読む人の方が、プラスの影響を評価している傾向にある。
- ・マンガを読まない人でも、プラスの影響として「癒された」「ストレスが発散できた・気分転換できた」「知識が増えた・学習に役立った」「想像力が豊かになった」を挙げた割合は、マンガを読む人よりは低いものの、一定の評価を得ている。

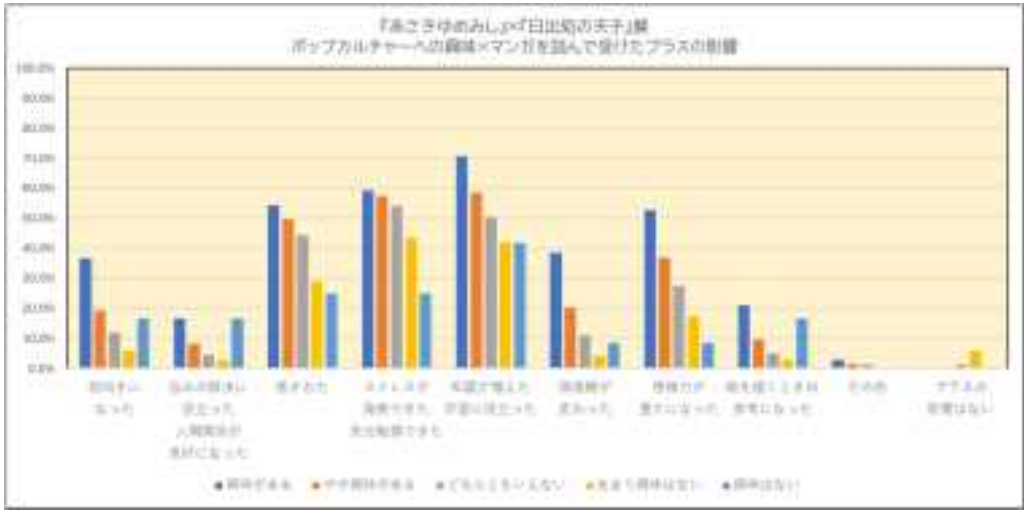
Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察 「マンガ複合施設」についての分析①

【ライブラリー機能】
〇マンガ、アニメ等のポップカルチャーに興味を持つ人は多い。
- 各展覧会参加者では、ポップカルチャーに興味を持つ人は非常に多い。
- 一方、市民ニーズ調査では、「興味がある」「やや興味がある」あわせて40.6%であり、今後はポップカルチャーに興味のない人にポップカルチャーの経済的価値、文化的価値を周知していくことが求められる。

〇ポップカルチャーに興味がない人でもマンガを読んでプラスの影響を受けている。
- 「癒された」「ストレスが発散できた・気分転換できた」「知識が増えた・学習に役立った」については、ポップカルチャーに「あまり興味はない」「興味はない」人でも、一定の評価をしている。



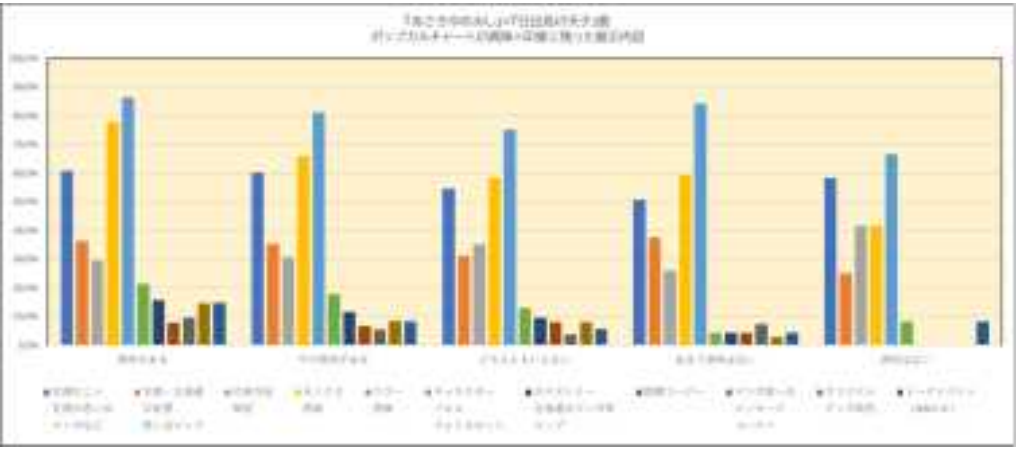




Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察 「マンガ複合施設」についての分析②

【ミュージアム機能】
〇原画展示、作品の解説に対するニーズは高い。
- 二人展では、ポップカルチャーに興味のない人でも、印象に残った展示内容として、「カラー原画」「モノクロ原画」を挙げる人が多い。
- また、ポップカルチャーに興味のない人でも、ポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこととして、「原画展示」「作家のコメント」「作品の解説」を挙げる人が多い。
- 以上のように、原画の保存・活用、作品の解説に対するニーズは高い。

〇北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会のニーズは高い。
- ポップカルチャーの展覧会への興味より、北海道ゆかりの展覧会の参加意向の方が、特にポップカルチャーに興味のない人でも高い傾向にある。
- 単なるポップカルチャーの展覧会ではなく、北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会を通じて、地域の魅力を伝えることが求められる。

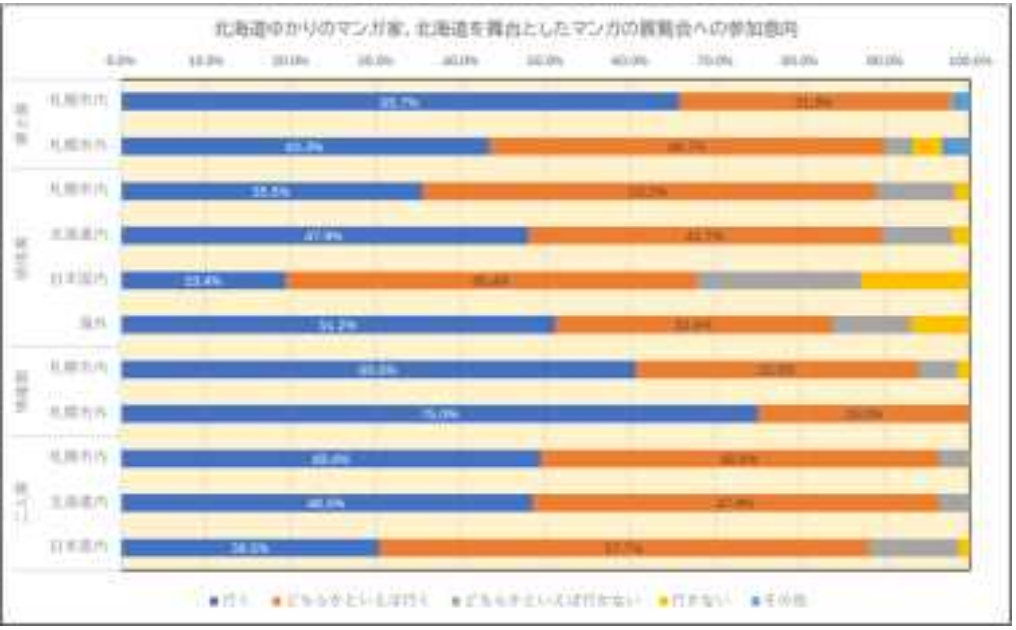


Ⅲ　アンケート調査結果の分析・考察 「マンガ複合施設」についての分析③

【ビジネス機能】
〇北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会は市外、道外、国外からの誘客の可能性あり
- 北海道ゆかりのマンガ家や北海道を舞台としたマンガの展覧会は、市民に限らず、市外、道外、国外からの参加意向は高い。
- 現状は展覧会のニーズであるが、常設展示する拠点を整備することにより、年間を通しての誘客の可能性は広がる。

〇市外、道外、海外からの誘客は市内での消費を伴い、市経済の活性化につながる。
- 市外、道外、海外からの誘客は、市内消費を伴い、市経済の活性化につながることが期待される。
- 現状、期間限定の展覧会であるが、常設展示する拠点を整備することにより、年間を通しての誘客、ひいては市内消費の拡大、市経済の活性化につながることが期待される。

〇オリジナルグッズの購入を楽しみにしている人がいる。
- 妖怪展、二人展では、オリジナルグッズが販売され、特に二人展では回答者の47.0%が「購入した・これから購入する」と回答しており、購入金額は668万円（金額記入者のみの計）にのぼる。
- また、ポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこととして「グッズ購入」を挙げた人も一定割合存在する。



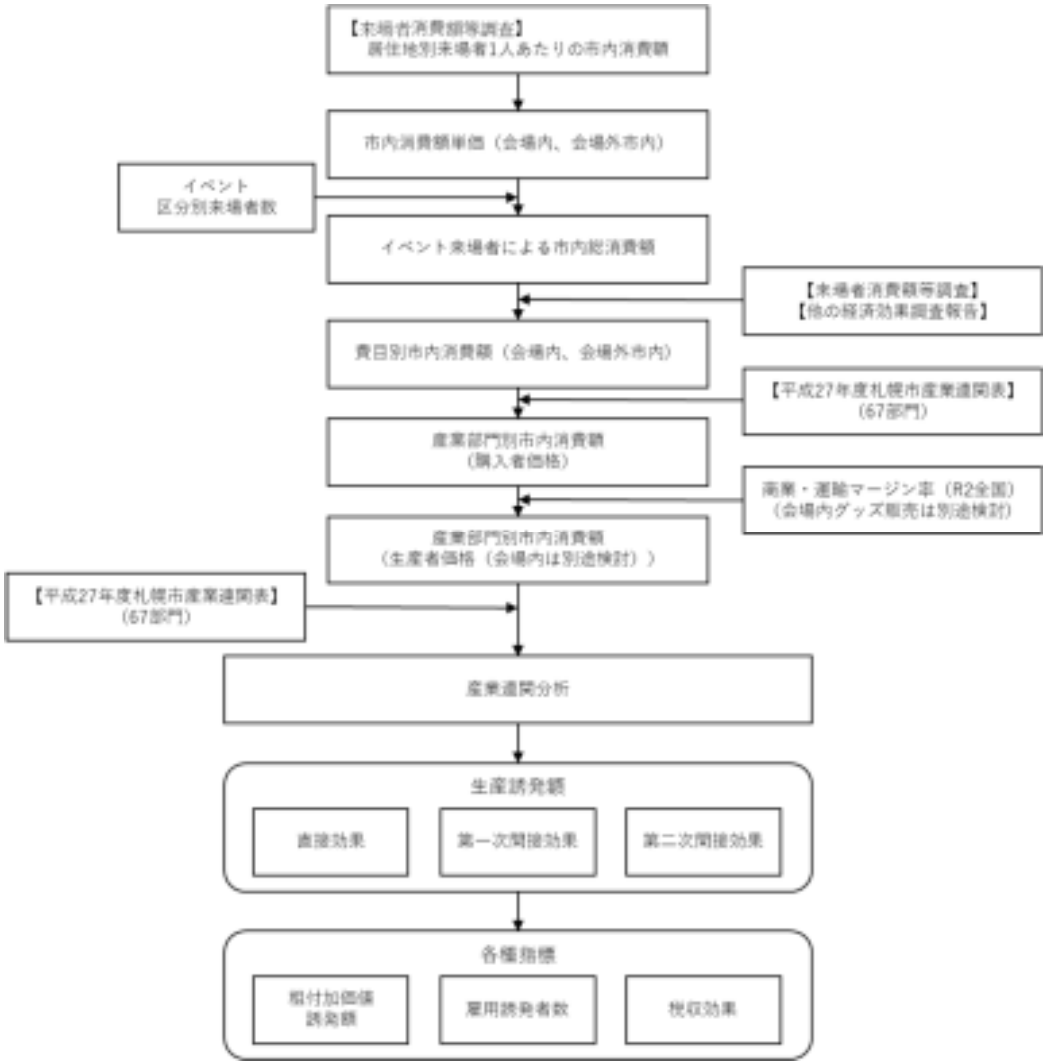
【来場に伴う市内消費支出】

		平均単価（円/人）					
		交通費	宿泊費	飲食費	土産・買物代	その他の支出	合計
白い妖怪ぱーく展	札幌市内	732	694	1,337	2,163	954	5,880
	北海道内	1,598	1,929	2,284	4,378	1,320	11,508
	日本国内	7,989	9,049	10,571	16,812	6,441	50,862
	海外	5,419	8,595	6,942	11,640	4,841	37,437
『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展	札幌市内	634	51	1,234	2,200	783	4,902
	北海道内	3,557	2,393	3,093	5,540	2,299	16,882
	日本国内	11,039	17,152	9,305	14,985	5,186	57,666

【マンガ・アニメ等のポップカルチャーの展覧会で楽しみたいこと】

	作品の解説	作家のコメント	原画展示	キャラクター等のパネル展示	キャラクターや声優による音声案内、アナウンス	グッズ購入	体験イベント	立体物（衣装、模型等）の展示	その他	楽しみたいことはない
北海道とマンガのミライ展	67.9%	71.7%	78.5%	31.2%	26.6%	46.4%	27.0%	38.4%	3.8%	0.4%
白い妖怪ぱーく展	39.3%	26.4%	61.4%	37.2%	42.6%	14.9%	25.7%	30.9%	0.9%	0.8%
SAPPORO MANGA FOREST	62.7%	68.0%	78.7%	18.7%	16.0%	33.3%	24.0%	24.0%	10.7%	0.0%
『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展	47.2%	62.3%	79.7%	19.8%	36.5%	14.2%	7.9%	19.5%	1.9%	0.8%

【経済波及効果推計フロー(概略)】



【推計に用いる各種係数・データの算出方法】

係数・データ	出典・算出方法
産業連関表	札幌市まちづくり政策局政策企画部「平成27年札幌市産業連関表」
域内自給率	1－移輸入係数
移輸入係数	(移入額)＋(輸入額)÷市内需要合計 平成27年札幌市産業連関表(取引基本表)
消費転換率	消費支出÷実収入 総務省「家計調査報告」における令和5年度勤労者世帯平均値(札幌市)
民間消費パターン	部門別民間消費支出÷民間消費支出内生部門計 平成27年札幌市産業連関表(取引基本表)
雇用者所得率	雇用者所得÷市内生産額
雇用者所得	平成27年札幌市産業連関表(取引基本表)
市内総生産額	平成27年札幌市産業連関表(取引基本表)
付加価値率	(粗付加価値額―家計外消費支出)÷市内生産額 平成27年札幌市産業連関表(取引基本表)
雇用係数	雇用者数÷市内生産額(H27北海道産業連関表を用いることとする)
税収効果(個人分)	個人税収係数×雇用者所得効果
税収効果(法人分)	法人税収係数×生産誘発額
税収効果(間接税分)	関節税収係数×粗付加価値誘発額
個人税収係数	個人直接税収入額÷雇用者所得
法人税収係数	法人直接税収入額÷市内生産額
関節税収係数	関節税収入額÷市内総生産
市税収入額	札幌市財政局税制部「令和4年度市税決算額内訳」
市内総生産	札幌市まちづくり政策局政策企画部「札幌市民経済計算」 ・直近は令和2年度だが、コロナの影響大(特に宿泊業)

展覧会開催に伴う来場者の市内消費に伴う経済効果

【与件データ】

企画展	市内消費額（千円）	
白い妖怪ぱーく展 （入館者数：2,558人）	交通費	5,183,970
	宿泊費	8,660,946
	飲食費	6,959,089
	買物・土産代	16,636,820
	その他の支出	6,736,791
	合　計	44,177,616
『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展 （入場者数：8,029人）	交通費	21,517,995
	宿泊費	23,882,439
	飲食費	22,112,122
	買物・土産代	37,464,577
	その他の支出	13,606,189
	合　計	118,583,322

【経済波及効果】

白い妖怪ぱーく展（入館者数：2,558人）	
生産誘発額（千円）	59,417
粗付加価値誘発額（千円）	34,629
就業誘発人数（人/月）	81.8

『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展（入場者数：8,029人）	
生産誘発額（千円）	154,231
粗付加価値誘発額（千円）	88,605
就業誘発人数（人/月）	222.1

展覧会オリジナルグッズを市内製造したと想定した場合の経済効果

白い妖怪ぱーく展			
グッズ販売額（千円）	1,122	生産誘発額（千円）	1,197
グッズ生産額（生産者価格）（千円）	785	粗付加価値誘発額（千円）	562
		就業誘発人数（人/月）	1.05

『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展（実額ケース）			
グッズ販売額（千円）	8,181	生産誘発額（千円）	8,732
グッズ生産額（生産者価格）（千円）	5,727	粗付加価値誘発額（千円）	4,102
		就業誘発人数（人/月）	7.67

『あさきゆめみし』×『日出処の天子』展（潜在購入額ケース）			
グッズ潜在販売額（千円）	17,958	生産誘発額（千円）	19,167
グッズ生産額（生産者価格）（千円）	12,571	粗付加価値誘発額（千円）	9,004
		就業誘発人数（人/月）	16.84

注）　実額ケース：アンケート調査結果を基に、実際の販売額を推計したケース
潜在購入額ケース：アンケート調査結果を基に、潜在購入額を推計したケース（売切れがなかったと想定したケース）

Ⅴ　今後のポップカルチャー推進施策の検討

経済の視点	■ ポップカルチャーによる経済振興・活性化 • ポップカルチャー関連企業（アニメ・ゲーム会社等）の誘致・育成 • IPを活用したポップカルチャー関連グッズの開発・製造・販売 • イベント開催等による国内外のポップカルチャーに興味を持つ観光客の誘致・市内消費の誘発
文化芸術の視点	■ ポップカルチャーを通したシビックプライドの醸成 • ポップカルチャーを通じた豊かな人間性の涵養、創造力と感性の醸成 • ポップカルチャーを通じて、人間相互の理解を促進するなど、共生社会の基盤形成 • ポップカルチャーによる新たな需要や高い付加価値の創出 • 学技術の発展と情報化の進展が目覚ましい現代社会において、ポップカルチャーを通じて、人間尊重の価値観に基づく人類の真の発展に貢献 • ポップカルチャーを文化芸術として、その多様性を維持・継承
人材育成の視点	■ ポップカルチャー関連人材の育成・発掘 • ポップカルチャーに興味を持つ主にα世代を中心にポップカルチャーに関する教育の場、ポップカルチャーに接する機会の場を提供 • 専門教育機関、ポップカルチャー関連企業等との連携によるポップカルチャーに関連する仕事内容・作品等に関する情報提供・紹介・アドバイス、地元企業とのマッチングの場の提供

経済の視点 × 文化芸術の視点	■ ポップカルチャーによる経済効果を市民が享受・実感・理解し、市民がポップカルチャーのまちとして誇りや愛着、地域社会に貢献する意識が醸成される
経済の視点 × 人材育成の視点	■ ポップカルチャー関連企業の進出・集積とポップカルチャー関連人材（若者）の育成・発掘、地元就職・定着の好循環が生まれる
文化芸術の視点 × 人材育成の視点	■ 市民がマンガ、アニメ等のポップカルチャーを文化芸術として認識、評価し、ポップカルチャーのまちとしてシビックプライドが醸成されることに伴い、市民参加型の取組が活発化し、ひいては人材が札幌に集まるようになる

【取り組むべき施策（短期）】

より積極的な情報発信	■ 様々なメディアの活用・対応 ■ 提供・発信する情報の工夫
イベントの開催	■ テーマ・内容についての検討・工夫 ■ 開催場所についての検討・工夫（長期的には常設展示の拠点が必要） ■ 開催期間についての検討・工夫（長期開催） ■ オリジナルグッズの開発・製造・販売
より積極的な企業誘致活動	■ 多様なチャネルからのアプローチ ■ 誘致パンフレット等による情報発信・提供 ■ 首都圏等に本社を持つ企業へのアンケート調査、個別アプローチの実施
原画の収集・保存・活用	■ 原画の保存方法の確立・連携 ■ 原画展示 ■ IP管理によるその有効活用（特に地元企業とのコラボによるオリジナルグッズの開発・製造・販売）

【マンガ複合施設構想実現に向けた今後の取組・展開】

機　能	実現に向けた当面の取組	マンガ複合施設における展開
ライブラリー機能	■ 所蔵書物・資料の充実 ■ 相談員・学芸員の育成	■ テーマ別書架づくり ■ 相談窓口の設置、相談員の配置
ミュージアム機能	■ 原画の収集・保存に関する既存ネットワークとの連携 ■ 原画の収集・保存と作家・出版社等とのネットワークづくり	■ 原画の収集・保存・活用 ■ マンガを文化芸術として研究する組織・機関の構築・設立
ビジネス機能	■ 企画展の開催による機運醸成 ■ IP管理に向けたノウハウ取得・体制整備 ■ 専門教育機関、既存進出企業等とのネットワーク構築による若者の地元就職・地元定着支援	■ 常設展示、企画展の開催 ■ 道内聖地巡礼の拠点としての機能整備 ■ IP管理による地元企業とのコラボによるオリジナルグッズの開発・製造・販売 ■ 各種マッチングの場の提供